高専の魅力

徳之島に若者を育む場を！

離島や過疎地では、若者がもっぱら流出し、若者人口の極端な減少が地域の活性喪失に拍車をかけています。その打開策としては、若者に定住を期待するのではなく、数年単位のいわば、滞在人口の増加を実現する方向があり、高等教育機関の設置が有効と考えられます。

しかし、日本全土で、若者人口が減少し、多くの大学が定員割れの危機にある中で、今更、離島に大学の設置など論外というのが現実でしょう。

所が大学や短大が全体として志願率を下げている中で、唯一そのレベルを保っている高等教育機関がります。それは、通称、高専とよばれる高等専門学校です。高専の規模は大学に比べれば、遙かに小規模で、最大でも一学年200名程度で、離島などの過疎地域にとって、むしろ有利です。実際に、国立高専で見れば、一部を除いては、県庁所在地などから遠く離れた地方に設置されており、学寮施設を保有するのが一般です。

その特徴は、中学卒を受け入れる点で、入学時には、高等学校と競合します。高等学校がいわば大学への受験中心の教育であるのに対し、高専では、5年一貫の、実験、実習などをふんだんに取り込んだ実践的教育を行い、大学2年生に相当する卒業生を送り出します。その実力は高く評価され、就職率は、大不況下でも常に100％を維持し、大手企業からも積極的な求人活動があります。さらに、近年は、卒業生の4割近くが、編入試験を受けて、大学3年生になっており、その内の7割以上が国立大学への進学です。

21世紀の生活を特徴づけるキーワードには、環境、安全、食料などが入っています。一方、21世紀は知の時代といわれ、生涯教育を含む教育により、人間力の向上が必須とされます。

そこで、中学卒のみずみずしい知性を全国から受入れ、5年一貫で、農を体験させつつ幅広い教養を備えた人間教育を目指す新らしい型の高専を、この徳之島に設置することを提案したい。徳之島の豊かな自然と亀津断髪の伝統の中で育まれた若者が、全国大学の文理を問わない様々な専門課程へ進学して行く。徳之島を新しい人材供給基地に変身させるのであります。

その設置に当たっては、地元の意向が大きな要素になることは当然で、教授や助教授を合わせて数十人の単位で集め、学寮や図書館の設置を負担する必要があります。さらに、島出身者は勿論、広く全国民に呼びかけ、新しい型の高等専門学校設置の意義を広めることで、世論を喚起し、広く浄財を集めることも必要でしょう。

このような高等教育機関が設置されることの波及効果は極めて大きいと期待できます。

何よりも、島に若者が全国から集まり、島の活性化に大きな効果があります。それに波及される様々な付加的効果も考えられます。

以上、徳之島に高等専門学校を設置するという夢を、是非、ご検討頂きたいと思います。

奄美黒糖焼酎の店（創業21年）
居酒屋　大吉（だいきち）
代表　大吉平造
天城町天城出身（大高 5回卒）天城町観光大使
郷友会、同窓会に是非ご利用下さい。
（島関係は大吉平造にお任せ下さい）
〒150-0021　東京都渋谷区恵比寿西 1-7-11
TEL 03-3496-8904　FAX 03-3770-7790

株式会社 ユイワークサポート
高速ネット新時代のお手伝い！
Internet Solution Business
代表取締役 宮原たつこ（天城町松原出身）
〒158-0084　東京都世田谷区東玉川 1-19-17
TEL 03-5754-3028　FAX 03-5754-3029
mail:nnmiya@web-inet.com
http://www1.web-inet.jp/ywnet

ふる里の島　徳之島で生まれた蒸留酒の絶品
島興しの一助にと頑張ってます。
奄美酒類株式会社
東京出張所
〒160-0023　新宿区西新宿 4-7-13-105
TEL 03-3376-2966　FAX 03-3376-4351
ファックスで注文承っております。ご利用下さい

事業部としての思い

❶各郷友会の貢献度

小さくは出身校区から始まり、市町村の名称で括られ、賛同者の会費を基本原資として、運営されているのが大半と思います。その役員や事務局スタッフは、無償ボランティアの持ち回り責務で、各郷友会との「交流会や行事の出張負担」に悩みながらも、志ある役員の連携の証が「広域連合組織である県人会」として形成されていると思います。

また、年にいくつかある大きな行事は、心有る方々の寄付や特別会費の徴収で運営され、親睦や先輩達の慰労の場として貢献していると思います。

中には、郷友との人的交流を深め、個人の信頼を築き、ビジネスや選挙の協力者として、成功されている方々もいます。それはそれとして、この郷友会の素晴らしい魅力だと思います。

具体的な例としまして、役員の相互理解の上に形成された「三州倶楽部」は、各界の交流の場として鹿児島や東京の政財界に大きく貢献している団体になっていると思います。

❷「夢」振興会議としての貢献度

「仲間が集い、昔を語り、互いを慰労する」から発展し、「明日や次代の夢を語り創造する」即ち、「産業振興会」が「夢振興会議」だと思います。

夢振興会議は、語った夢を正夢にする【能力＝（知識＋経験）×（経済＋行政）】を併せ持つ団体で、それがこの会議の存在価値と魅力であると思います。

この「夢振興会議」の会員は、各郷友会の会員や他の賛同者で形成されており、『各郷友会の理解と協力』は絶大なるものであります。

即ち、「三州倶楽部」が各界の交流の場であれば、「夢振興会議」は、町民レベルの交流の場であり、夢を語り、そして具現化し、町民に貢献できる団体であると思います。

❸政治家や行政との関係

私たちの生まれた徳之島は、世界一長寿の泉重千代翁の生誕地よりも、保徳戦争と命名された「伊仙町の選挙派閥による暴動」が全国的に有名になり、未だ継続の渦中にあります。

島出身者の多くは、この暴動イメージで評価されるのが嫌で、出身地も語りたくない位で、全てを払拭したいのが本音と思われます。

しかし、島で生活している一般町民には関係ないはずであるが、兼業農家のため勤務先の都合から、どちらかの派閥に属さないと生活基盤そのものが瓦解する「勝ち組みと負け組みに分別される」ことに止むを得ない事情があります。

これには島民全体が熱血選挙となり、まったく関係ない役場職員も関知して、選挙派閥人事に波及しているのが現状です。

この解決には、公共事業に頼らない離島産業の育成が、絶対なる不可欠要素であります。

この現況からして、「夢振興会議」に対する期待は多大なものであり、これを裏切ることは天誅が下ることと責任を感じます。

しかし、夢を具現化するにあたっては政治家の理解と協力も必要であり、選挙運動には関知はしない（投票権がない為）が、関係ないと思われる政治家も含めて、偏らない財界交流は必要と思います。

生活・文化グループ分科会開催

２００４年11月28日、東興ホテルにおいて生活・文化グループの分科会を開催しました。自然・環境、健康・福祉、文化・教育チームの会員を中心に17名が全員熱い意見を出し合いました。

「徳之島の人々が将来にわたって、より幸せに生きるとはどういうことか、何が必要か」について意見交換し、徳之島「夢」振興会議の活動をより効果的にしようと企画しました。

結果的には、貴重な天然資源が失われつつあり、再生や経済基盤としての活用が必要なこと、郷土芸能・自然環境を活用した島外との教育交流など具体的な活動に結びつく提案がなされました。意見のいくつかを以下に記します。

●海草と魚介類の豊富なさんご礁の海は失われつつある。

漁業牧場として再生と生活基盤として活用すべきである。

●川、田んぼ、畑を一体として保全・活用すべきである。

●砂糖きび、大島つむぎに加えて、赤米などもみなおして商品化してはどうか。

●島唄、闘牛、なつめ踊りなどの郷土芸能は観光・教育の島外交流に貴重である。

●高すぎる航空運賃、人口減による高等学校縮小圧力など難題も抱えている。

●廃棄物増大、多すぎる車両などのごみ問題も発生している。

以上

古勝　昭男　記

徳之島出身の若者の交流の場を！

たまにふるさとの唄や味や言葉を思い出し、
元気を取り戻す場があると良いなと感じている人。
そういう場を、自分たちで作ってみませんか。
徳之島「夢」振興会議のホームページを見て下さい。